

本校の特色を再認識する

校長 相川 保 敏

4月の終盤を迎える頃になると、1年生が玄関で保護者の方と離れられず、困っている様子を毎年見かけます。先日、声をかけようとしたところ、6年生がすでに歩み寄り「一緒に教室に行こうか」と優しく声をかけていました。次第に、寄り添う「お姉さん」の数が増え1年生の周りを取り囲むほどになりました。最終的には担任が対応し、校長の出番はありませんでしたが、だれもが困っている1年生を見ると進んで声をかけたり、手を差し伸べたりすることが自然にできるところが本校の子どもたちの素晴らしいところだと改めて感じました。

4月21日（日）に本校で東海地区私立小学校展が開催され、本校を含めた6校が説明会を行いました。本校と同じように「英語教育」「ICT教育」「日本文化体験」に力を入れている学校が多く、中には「探究学習（プロジェクト型学習）」に特化している学校や自分の行きたい中学校に合格できるように「受験指導」に力を入れている学校など、各校の特色が表れていました。

改めて本校の特色を考えた場合、根本は学園の教育理念「人間になろう」の基で、校訓「強く、明るく、美しく」を掲げた人間教育です。他者と連携・協力しながらよりよいものをつくっていかうとする「協働」と自分の力で判断行動できる「自立」の両面から、グローバル社会で活躍できる女性の育成を目指しています。具体的な教育活動は、先日本配りした「学校案内」に掲載してある通りです。ある特定の教育活動に重点を置きそれを核として進めていく考えでなく、一人一人の子どもたちが持っている様々な可能性の芽を6年間かけてじっくり育てていくのが本校のスタイルです。小学生段階では様々な可能性があり、その子の特性を見極めていくことは容易でなく幅広く体験させていくことが大切であると考えます。また、本校の教育活動は70年の歴史の中で培われてきたもの、

新たな時代の要請の中で取り入れられもので構成されています。この伝統と先進の教育が本校の特色ですが4月号でお伝えしたように、変化していくことを厭わず、子どもたちの実態に合わせて見直しをかけていく姿勢を大切にしています。

そして、他校と大きく異なる点は「女子校」であるということです。これまで何度も述べてきましたが、女子のみということで、性差による偏見にさらされないこと、異性の目を気にせず自分らしく過ごせること、リーダー性を発揮しやすいことなどがあります。そして、互いに切磋琢磨したり、協力したりする中で、自立と協働の心が育っていきます。特に、人間性が形成される小学校段階において、よい手本となる「お姉さん」がたくさんいることです。冒頭の例は、6年生自身が1年生の時に受けた「優しさ」が継承されたものと考えます。様々な場面で活躍するたくさんの「すてきなお姉さん」の姿は、自分の行動や考え方の模範となっていきます。グローバル社会で活躍する、思いやり・優しさ、品性などを備えた日本の女性に成長していくための土台が形成されるように今後も努めてまいりたいと考えています。

5月の月目標は「間において考えよう」です。感情にまかせてすぐ反応するのではなく、ちょっと間を置いて考える時間を持つという趣旨のめあてです。多様性が増していく現代社会の中では、様々な価値観を有する人と協働していく必要があります。人とうまくかわっていくスキルとして、感情コントロール、適切な言葉選びなどが必要です。深呼吸をしてから行動するだけでも、学校生活の中での「トラブル」が軽減されるかもしれません。また新しい考えが浮かぶこともあるかもしれません。「間」の大切さを考えさせていきます。